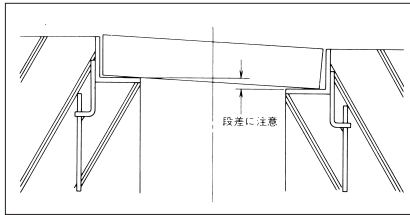


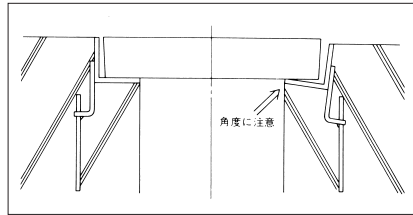
受枠の施工要領

グレーチングの破損及び騒音発生原因の多くは、受枠の施工不良に起因しております。受枠の取付けには、次の点に十分注意して施工して下さい。

段差に注意して施工して下さい。

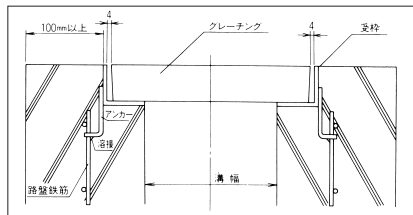


受枠を傾けないで施工して下さい。



コンクリートの打込幅、受枠とグレーチングのスキ間に注意して下さい。

コンクリートの打込幅は受枠より100mm以上お取り下さい。
受枠とグレーチングのスキ間は4mmにして下さい。
路盤鉄筋のある場合は、これにアンカーを溶接して下さい。



⚠ 使用上の注意

設計条件を越える荷重がかかる場所では使用しないでください。
グレーチングは、使用する場所や用途に合わせて耐荷重を設定しています。設計条件以上の荷重がかかった場合、変型や破損を招き、事故の原因となることがあります。

敷設場所の車両の進行方向を確認してください。

グレーチングには、「側溝用」と「横断溝用」の2タイプがあります。敷設場所の車両の進行方向を確認のうえ、型式をご指定ください。型式を誤ると変形や破損を招き、事故の原因となることがあります。

取付け・取外しはしないでください。

清掃や交換を行う場合、取付け・取外しは専門の業者に依頼してください。誤った取付け方をすると変形や破損を招き、事故の原因となることがあります。オモテ面を上にして敷設してください。

グレーチングにはオモテ面(クロスバー側)とウラ面があります。誤ってウラ面を上にするると、転倒や脱輪などの事故を招くことがあります。

ペアリングバーはスパン方向に設置してください。

正方形のグレーチングも施工時が荷重条件です。設置の方向を誤ると変形や破損を招き、事故の原因となることがあります。

グレーチングの選定をはじめ、敷設、受枠などの工事は、専門業者による規格に沿った設計・施工をお願いいたします。

改造をしないでください。

塗装や切断、形を変えるなどの改造をしないでください。錆の発生や強度低下により破損し、事故の原因となることがあります。

油などが付着した場合はただちにに取り除いてください。

滑りやすいものが付着した場合、車両のスリップや歩行者の転倒事故などを招くことがあります。ただちに清掃し取り除いてください。

破損、変型したグレーチングの使用は避けてください。

変形したり破損したグレーチングは、強度や機能が著しく低下しており、事故の原因となることがあります。

指をスキ間に入れしないでください。

施行時など、誤ってスキ間に指を入れると、指詰めなどによりケガをすることがあります。

蓋以外の用途について

グレーチングを蓋以外の用途に使用する場合は、事前に弊社にお問い合わせください。